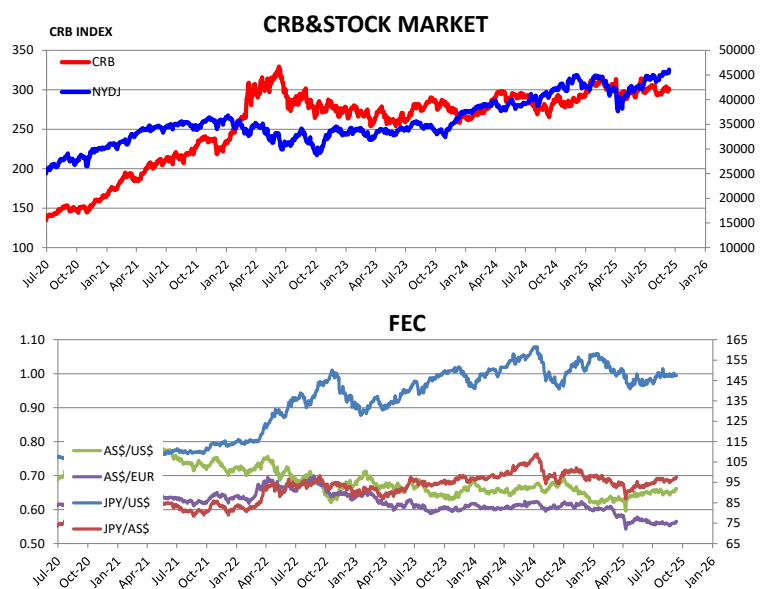
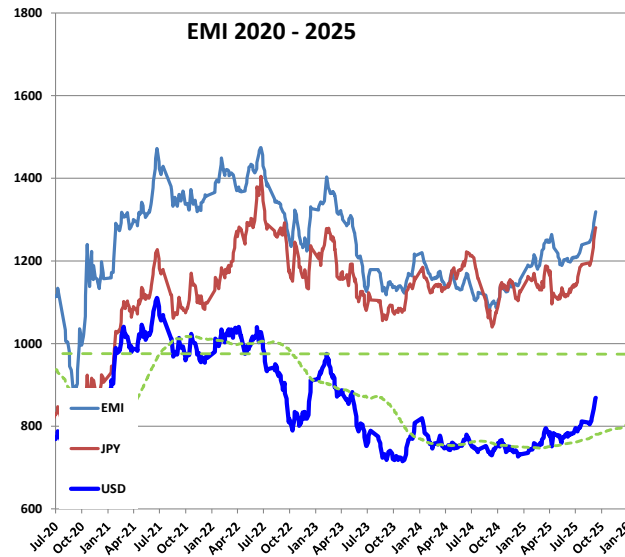


Motohiro Weekly Market Report

12-Sep-25

SALE WEEK

11



COMMENTS

Prices at this week's Australian wool sales surged to levels not seen since early March of 2023. Auction prices have rallied strongly, catching some by surprise. It's been an exceptionally good run and one that is well needed to build confidence in the industry. The usual major buyers are facing good competition from a wider range of exporters while supply remains a limiting factor.

There is some noticeable interest in the better fine wools in 17-18 micron coming onto the market. However, some were looking for value. And this helped add another 1 to 2% onto the burry and inferior fleece wools late in the week. Discounts for higher VM are now settling around long-term trends after the focus has been on the lower VM fleece and skirtings for an extended period. It does appear that the dearer market has influenced this change.

Basics of any spot commodity trading environment suggests markets mostly go up when demand outstrips supply. Now that production is forecast to be a few percent under that 5-year average and demand remains unchanged then this is a demand driven market that is being amplified by supply pressure. To say that it is just supply forcing the better levels is too simplistic.

Auction volumes rise by about 7% next week with a touch over 29,000 bales being rostered to sell. We would expect that with the annual Nanjing Wool Conference to be held next week, along with another small national offering, that prices should remain relatively stable pending any dramatic change on the currency exchange rates.

今週の羊毛市場は続伸。為替市場における豪ドル高も加わり、USドルベースの羊毛価格は先週から更に上げ幅を拡大した。休会明け以降の3週間の上昇率は既に8%に迫る勢いで、昨シーズン終盤まで1年近く膠着していたUSドル建てのボックスレンジを完全に上抜けた格好となっている。もっともセール後半にかけては、買い手の多くが追従難となり、その結果、相場の上昇速度もやや落ち着いている。

ここまでの展開としてはまず大手メーカー勢による長期休会に絡んだキャッチアップ需要がマーケットを主導する一方で、旱魃の影響を受けた貧弱な出市内容は新年度スタート以降も目立った改善は見られず、また今シーズンの産毛量の大幅減少予測を背景に生産者サイドの販売スタンスが総じて強気に転じた事で、オークション現場では特にベタータイプ中心に需給タイト感が徐々に強まっていた事が挙げられる。その後、羊毛相場が休会明け以降も上昇基調を維持している事を受け、これまで様子見色の強かった中国メーカーの多くが、この先の相場上昇を警戒（腹を括ったとも言える）し、一斉に数量確保優先の買付スタンスに切り替わった事で、競合が一気に激化したという流れ。また休会中にデリバリーと資金回収が進み、ある程度資金的な余力の生じたトレーダー勢がこうした動きを後押ししている部分もありそう。

セール内容としては、これまで相場を牽引してきたグッドスタイル&スベックなベタータイプやRWSやNM等の認証系羊毛以上に、相対的な出市比率の高さから買い手に嫌忌され大幅なディスカウントを強いられていた格落ち羊毛のリカバリーが顕著となったのが特徴。こうした現象は相場上昇局面においてよく見られる展開（質より量を優先）の1つで、長らくボックス相場を形成していた頃とは一線を画す値動きと言える。

然しながら、一方で短期間での急激な相場上昇の反動を懸念する見方もあり、実際、従来コンスタントに買付数量を稼いでいた中国大手メーカーの一部は、今週に入り買付をやや手控えて相場熱をクールダウンさせようとした形跡も見受けられた。また長らく続いたボックス相場をベースとしたコスト感を大幅に上回る価格上昇を、果たして客先が許容できるかどうかという問題もある。ボックス相場の背景は、端的に言うところ川下の市況低迷と供給減及び生産コスト上昇とのせめぎ合いの結果であり、現段階では世界の景気や消費がそこまで回復したと判断できる材料はまだ殆ど見当たらない。強いて挙げれば株価だろうが、实体经济においてはまだ現実感が乏しいと言わざるを得ない。当面のところは簿価の安い滞留&仕掛在庫をバッファに出来るので、今の原料相場の上昇が全て製品価格に転嫁される事はないと思われるが、彼我それぞれの原料在庫の奥行きは決して深くはなく、バッファ消費後の価格レベルを許容できる程、川下の市況が好転しているかについてはまだ未知数だろう。

来週の羊毛セールは引き続き週3万俵前後の小規模セールとなる予定。休会明けからの相場上昇を好感した出市増を期待する見方もあるが、今のところは数字に反映されてないのが実情。また為替市場では米利下げ観測の台頭により豪ドルが上昇を続けており、引き続き外貨ベースでの羊毛価格の上げ底要因となる可能性。目先は急騰の反動を警戒しながらも、先々の供給懸念や更なる相場上昇リスクに対するヘッジ的な買いオーダーが実際の供給量を上回る状況が続くそう。因みに中国方面では来週末から南京羊毛会議が開催予定。年一度羊毛サプライチェーンの主だったバイヤー&サプライヤーが集結するイベントにおいて、現在及びこの先の羊毛相場に対してどういった見通しが語られるのか要注目。

MICRON INDEX

~18.5mic 続伸。USDベース:△3~4%

19.5mic 続伸。USDベース:△3~4%

20.5mic 続伸。USDベース:△4~5%

22.0-23mic 続伸。USDベース:△4~5%

24.5mic 続伸。USDベース:△3~4%

XBD's 堅調。USDベース:△1~2%

CARDINGS 続伸。USDベース:△2~3%

EMI on USD

US\$11.10

US\$10.38

US\$10.25

US\$10.10

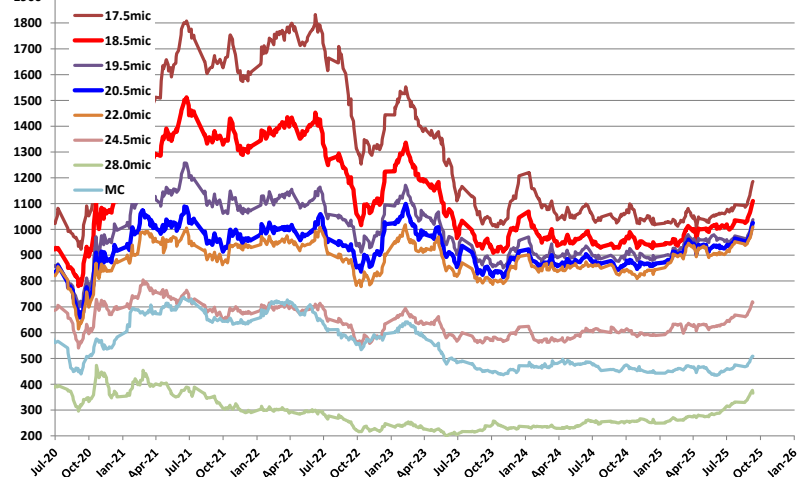
US\$7.17

US\$3.66

US\$5.09

MICRON INDEX 2020-2025

USD



MAIN BUYERS/BALES

TECH-	4,944	EWE-	3,712	PJM-	2,818
AME-	2,308	MLW-	2,078	SQA-	2,076
TYN-	1,570	UNT-	1,445	FOX-	1,368
PLC-	704	MICH-	394	GSA-	40

NEXT SALES

WEEK 12 (16-17/SEP)

SYDNEY	9,192	BALES
MELBOURNE	16,280	BALES
FREMANTLE	5,520	BALES
TOTAL	30,992	BALES TO BE OFFERED

<Motohiro Sydney Office>